

# Detection of atrial fibrillation and sinus pause in embolic stroke of undetermined sources by chest strap-style 7-Day Holter monitoring

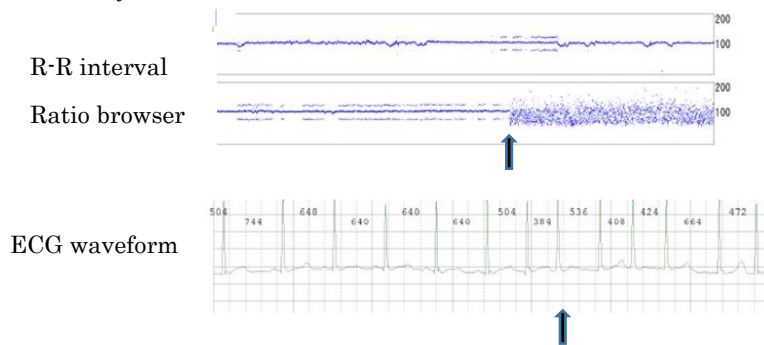
Sono Toi, Megumi Hosoya, Kentaro Ishizuka, Takao Hoshino, Kazuo Kitagawa  
Neurology and Clinical Neuroscience (Impact factor 0.5), 2023 in press

植込み型 loop recorder (ILR) による長時間心電図モニタリングは、発作性心房細動 (PAF) 検出に有用である。塞栓源不明脳梗塞 (ESUS) における PAF の検出にも有用であるが、非侵襲的 7 日間 Holter モニタリングの有用性は未確立であり、洞停止 (SP) などの不整脈の発生率は不明である。そこで我々は、(1)脳卒中発症後急性期 (1 か月以内) および慢性期 (1 か月以降) における 7 日間 Holter モニタリングの有用性を検討し、(2)ESUS 患者における SP の発生率を明らかにすることを目的とした。

2016 年 4 月~2021 年 3 月に当院に入院した 738 例を前向きに登録し、ESUS 241 人中 140 名に胸部貼付型 Holter モニタリングを実施し、PAF と SP ( $\geq 3$  秒) を検討した。

結果は、index stroke から検査までの期間は中央値 17 日であり、急性期 ESUS 80 例では PAF 3 例 (3.8%), SP 2 例 (2.5%) が検出されたが、慢性期 52 例では PAF が 1 例 (1.9%) にのみ検出された。急性期の 7 日間 Holter モニタリングは PAF 検出や心塞栓源となりうる SP の検出に有用で、緊急の治療介入に寄与する可能性がある。

(A) Paroxysmal atrial fibrillation



(B) Sinus pause

